

# 会派 新誠会 行政視察

平成28年8月23日(火)

14:30~16:30

兼重元・田村勇一・米沢宏達・坂本心次

## 函館 葛谷書店の概要・運営について

交通の便は、あまり良くない。滞在型の施設で市民は車で来店する。駐車場の台数は、650台。本市においては、新徳山駅ビル隣接の駐車場の、120台を予定している。(300m以内には約900台)

2000坪規模の大型店で、想定商圏規模は約30万人、地方都市の少子高齢化、人口減少推移と函館の推移が酷似、全国の傾向よりも少し先をいく。函館 葛谷書店が、モデルとなる様に出店された。

今回、一番の目玉となるのは、“中央吹き抜けマルシェ”であった。

2013年、冬 函館に根を張り 鼓動を開始。

「函館 葛谷書店」その体幹に位置する1Fのマルシェは、

この知的生命体を持つ「マチ、ヒト、コト、モノ」すべてが交差する場という意志を体現する。いわば、心臓部分を担う。

この空間が日々発するものから多くの人が書店の意志を肌で感じとり、そして魅せられている。

開業一発目のマルシェを飾ったのは、地元函館の木であった。

「オンコの木」を使用した。市民に馴染みの深い常緑針葉樹はクリスマスツリーとなって訪れる人を出迎え“あめかし”、これは市内近郊を活躍する作家たちの協力で500個ものフェルト王やキャンドルで飾られたと聞く。

来客者が喜ぶ事を最優先に考えてある。

マガジンストリート、キッズパーク、読書の谷、パニの木、化粧品  
音楽スペース、ゲーム大会、レストラン等。

街に新しい文化の種をまき…育てる。全市民の居場所。

函館宮前書局の方針は、地方の方々が集い楽しむ姿が風景  
として成立することが大切で、それが実現すれば、また別の都市で  
その街ならではの宮前書局を展開していく。

○ 来客と共に作っていく場所、みんなの居場所になる。

文化の公園と共に作り育ていくとい  
い

30年openの新徳山駅ビルでのCCCの活躍が期待され  
る。有意義な視察であった。

平成28年8月24日

市民と語る会及び議会運営について

——小樽市議会——

説明員

小樽市議会事務局

局長 田中泰彦氏

次長 林昭雄氏

小樽市議会においては、平成19年市議会活性化検討会議(第1次)が設置され、「開かれた議会」「審議の充実」「その他」について検討がなされ、その中で試行的に議会報告・意見交換会が4回にわたって開催された。この4回の開催はテーマを決めて、特定の職域団体や地縁団体を対象としたものであった。

(カ)参加者からは、テーマが専門的で多岐にわたり、又、議会からの報告も長すぎるとの声があった。そのことを受け、平成28年第2次「市議会活性化検討会議」で対象を一般市民とし、テーマは設けず直近の定例議会の常任委員会・予算決算特別委員会での概要を報告し意見を求め、その他市民からの要望等を聞く様式に変更している。

開催日数は年2回(東部・西部それぞれの地域)で、理事者も出席し、時に説明しているとのことであった。開催の周知は、議会報や新聞掲載、対象地区に回覧等をしているとのことであった。市民の意見としては、対象地区に特化した活動報告や重要施策に絞った報告が欲しいという意見が上がっている。

「市民と語る会」で出た意見を議会としてどう反映しているかの問いに、一般質問や常任委員会で問いかけたり、議会報で一部報告しているとのことであった。又、議会の活性化の一助としての「市民と語る会」開催が、議会をどう活性化させたかの問いに、議員の顔を知ってもらうことができ、議員の資質向上につながっているとのことであった。

所感として、議会が市民と直接向きあい何をするかあいまいで、御用さきの様な感じがする。又、市民からの意見に対し、議会という合議機関の決定や確認したことの範囲での答弁となり、議会・市民とも消化不良の運営となっている感がある。又、直近の常任委員会、特別委員会の報告では、市民からも指摘があるように不特定多数の市民に対して中味のあるものとなるか疑問である。

周南市議会においては委員会協議会(ミニコン)という制度を設けているが、市民との意見交換であるならばこの制度を更に充実していけばよい。

他、議会運営について説明を受けた。毎定例会ごとに代表質問が行われ、一般質問は公称会派2名と限定している。又、常任委員会での質疑も一會派20分と制限しており、本市の質問、質疑のあり様とは開きがある。

議案に対する賛否の態度は、会派の賛否を議会報で公表しているとのことであった。本市では会派、個人とも公式には公表していないが、今後検討の余地がある。

# 視察報告書

- |        |                            |
|--------|----------------------------|
| 1・視察目的 | 旭山動物園の運営・施設の概要             |
| 2・視察日時 | 平成 28 年 8 月 25 日 (木) 15 時～ |
| 3・視察場所 | 旭川市 旭川動物園                  |
| 4・説明者  | 旭山動物園主査 中瀬 泰広様             |

## ① 施設の概要

- |            |                               |
|------------|-------------------------------|
| 施設面積       | 15,000 m <sup>2</sup>         |
| 従業員数       | 正社員 32 名 パート 32 名             |
| 年間餌代       | 約 4,000 万円                    |
| 年間入場者数     | 150 万人 (過去最高平成 19 年 300 万人)   |
| 園舎施設費      | ペンギン舎 4 億 6 千万円<br>アザラシ舎 6 億円 |
| 園内売店       | NPO 法人…売上から諸経費を差引き利益分を寄付      |
| 園内サポートセンター | ・緊急時の対応として看護師 1 名を配置          |

## 所感

園内の説明が実に丁寧で親切。各所に配置されている職員も礼儀正しく気持ちの良い挨拶で対応、好感が持てた。

お客様を大切にしている。又、入園者様に親しみを持って頂く為、全て職員の手描きで解りやすく説明してある。又、動物の生態に合った施設で、地形を活かした自然の形状造りとなっている。

動物たちの動き等が身近に観察出来、特性を良く捉えられる造りとなっており、動物の本能を見る事が出来る。

園内には、救護所としてサポートセンターが設置されており、入園者様の救護が出来るよう看護師も常駐しており、安心、安全面での配慮がなされている。

リニューアル中の徳山動物園も、動物の生態を活かした造りにするべきと考える。

徳山動物園から移園しているキリンの「元気」君も大きく成長し、繁殖が待ち遠しいとの事であった。